

羽田闘争50年



羽田闘争50周年集会で本の出版などについて報告する詩人の佐々木幹郎さん。手前は山崎博昭の遺影

＝東京都千代田区の主婦会館

反戦の遺志 未来につなぐ

ベトナム反戦デモに参加していた京大生の山崎博昭が、18歳で亡くなってから半世紀。その死の意味を問い、反戦の遺志を未来につなぐと、山崎の友人、知人らが結成した「10・8山崎博昭プロジェクト」が、東京で「羽田闘争50周年集会」を開いた。記念碑の建立やベトナムでの反戦展の開催、本の出版など、これまでの活動を報告し、山崎の思い出を語り合った。ベトナム戦争が続いていた

「10・8山崎博昭プロジェクト」が集会

寄稿集も出版

1967年10月8日、学生らは佐藤栄作首相(当時)が羽田空港から南ベトナムへ向かうことを阻止しようと、機動隊と衝突。山崎はこの「第1次羽田闘争」の中で、空港に通じる弁天橋で命を落とした。学生運動での死は、60年安保闘争で東大生の樺美智子が亡くなって以来のこと、全国の学生たちに衝撃を与えた。「10・8山崎博昭プロジェクト」は山崎の出身校の大阪府立大手前高や京大の同窓生



らを中心となって2014年に結成。今年6月、東京都大田区の福泉寺に山崎の名を刻んだ墓石と、反戦平和を祈念する文章を刻んだ「反戦の碑」を建立した。そして8月には、ベトナム・ホーチミンの戦争証跡博物館で「日本のベトナム反戦闘争とその時代展」を開催した。さらに10月には、「かつて10・8羽田闘争があった」(合同フォレスト) 写真集を出版した。社会学者の上野千鶴子さん、哲学者の鷲田清一さん

ん、文芸評論家の加藤典洋さん、作家の高橋源一郎さんら計61人が原稿を寄せた。600ページを超える厚さだ。編集を手掛けた詩人の佐々木幹郎さんは50周年集会で、この本の出版について報告し「お読みになったら、誰もが感動するはずですよ」と話した。「61人の50年の人生が全部違っていて、しかも10・8と山崎博昭を記念する、という結論は同じ。そこが面白い。50年という時間がもたらしたものがこの厚さなのだと思えます」集会では、佐々木さんの詩「死者の鞭」を俳優の品川徹さんが朗読したほか、歌人の福島泰樹さんが「山崎博昭に捧げる短歌絶叫コンサート」で山崎の死を悼んだ。

定型である。古典といふのは定型を知り、作法を守るものでもあるわけだから、そうなるその後年の作者は必ずしも現地に行く必要はない。山の中で人物が出会っていけば伊勢物語の場面ということになるのだが、実際に道を歩く間に浮かんたのは、依屋宗達筆、鳥丸光広賛の「蕨の細道図屏風」の方だった。その名の通り、蕨の細道を描く作品で、蕨や葉はあるが、人の姿は見えない。上下に金と緑の2色で大胆に塗り分けている屏風には、光広の歌がい

⑪「伊勢物語」の蕨の



蕨の細道を歩く円城塔さん＝静岡県
蕨の細道の石碑。先に進むと、ごつごつし斜面になる＝静岡県藤枝市

芸能史研究
・京都市上
雄代表)が
祭に関する
果を季刊誌
写真集の
まとめた。
以外の祭礼
都に関心の
薦めたい
昨年「
大会」で発

祇園

あす京舞井上流と

0遊 ながの井さ 古似